日本での宗教紛争の欠如とその意味
The Meaning Behind the Lack of Religious Conflict in Japan

ジョシュア・ザック　　Joshua Zak

82-372: Advanced Japanese II

1.　はじめに

私は「どのように日本は宗教関連の衝突を避けるのか」という質問について日本文化プロジェクトを選んだ。アメリカでは宗教関連の紛争がよくあるから、僕がどうやってそれをやめるかについて考えていて、答えを探したいと思った。そして、現代の世界には宗教関連の紛争しかないわけではないが、たくさんの国は本格的な戦争をしてしまった。それがひどいと思うし、日本を見ると、宗教関連の紛がないから、「どうやってその態度をアメリカや他の国に植え付けるか」という疑問が生じる。それはこのトピックを選んだ理由だ。今の段階の暫定的な結論は、「いいとこ取り」という考え方があるから、日本人が宗教を一つだけ守られないし、宗教関連の違いをあまり考えていない。そして、むかしに日本は鎖国だったから、日本は世界の紛争で干渉したことがないかもしれない。結果として、干渉しないことは習慣になると思っている。でも、本当の説明を見つけたいなら、必ずもっと研究をしたり、日本人と話したり、アメリカの歴史を見たりしなければならない。

2.　日本での宗教紛争の欠如とその意味

日本での宗教紛争の欠如について学ぶために、「どのように日本は宗教関連の衝突を避けるのか」という質問をしたり、そのトピックに拡大していったり、四つサブトピックの質問を選んだり、授業で日本人ゲストと話し合ったり、その質問を答えてみたりしようと思う。

2.1. 日本では、過去と現在でどのような宗教紛争があるのか

日本は豊かで複雑な歴史があるし、宗教が寄与していることは驚くことではない。昔に、日本の与党は偏狭な態度を持っていたが、他の国の宗教文化はまだ日本の宗教文化に影響した。例えば、インドと中国から仏教と儒教が来て、ヨーロッパからキリスト教宣教師のフランシスコ・ザビエルが日本に来て、キリスト教の教義を説いた。特に、徳川幕府の時に檀家制度を実施し始めた、これは、すべての家庭がお寺と提携させていた制度だった。昔の宗教関連の紛争は一つの宗教のサポートのほうがが別の宗教のそういうことより高くて、政府は国民が守る宗教を制御した。現在で、それは絶対に変わる。今の日本では、憲法第２０と憲法第８９は信教の自由を守って、政府は特定の宗教の遵守を義務付けることを禁止する。日本人ゲストの大迫慶一さんによると、過去では、日本は宗教関連の紛争があったが、現在ではそういうことがないし、今の日本人は宗教を守ることに自由になったそうだ。そして、今の日本人は「宗教に信じるか」という質問をすれば、「分からない」とか「あまり信じない」とか答えをあげる人の数が多いかもしれない。結果として、宗教について話すなら、戦いたくなることがあまりないそうだ。

2.2. どのように「いいとこ取り」という習慣は宗教に影響するのか

日本はたくさん習慣がある国だったが、一つの習慣がとても流行しているそうだ。それは「いいとこ取り」という習慣または考え方だ。「いいとこ取り」は他の国から文化的な側面を取って、それらを適応させる方法だが、日本人は便利な側面しか取らない。結果として、日本人はキリスト教や仏教や神道など宗教から便利なことを取って、一つだけの宗教を守られるわけではなくて、逆にさまざまな宗教を信じることができる。キサラ・ロバートと呼ばれる宗教文化教授によると、日本人は生まれた神道、結婚したキリスト教、死んだ仏教という人生を生きるようだ。そういう考え方を持っているから、日本人は宗教関連の紛争を避けがちだ。日本人ゲストの大迫さんによると、キサラの言葉が本当だそうだ。大迫さんからもらう例は、毎年にほとんどの日本人は初詣に行って、クリスマースを祝

って、神社にお守りを買うということがある。実は、日本人は様々の宗教から面白いことを見て、宗教の教義を信じなくても、まだ習慣を取る。

2.3. 日本では、宗教習合は何の役目があるのか

　現在で、宗教について日本は世俗的な国だし、宗教習合ということがある。宗教習合は、複数の宗教を融合できる能力という意味を持っている。「いいとこ取り」という考え方のおかげで、日本人はそういう能力がある。例えば、東京の路上で日本人に「宗教を信じているのか」という質問をしたら、ほとんどの人は「あまり信じていない」という答えをくれるが、同時にほとんどの人は宗教的なことを毎日するだろう。実際には、初詣を行う日本人は８９パーセントぐらいだそうだ。そして、日本では、結婚式についてキリスト教の教会式を挙げることがとても人気になったが、ほとんどに場合には新郎新婦はキリスト教をあまり信じていない。そういう宗教習合は紛争を避ける役目があると思っている。日本人ゲストの鳥谷部さんによると、日本の宗教は一つの宗教じゃなくて、習合された宗教になったのに、そういう宗教団体の中で小さい紛争があるそうが、ほとんどの宗教を守る人はまだ十分気にしないで、違う宗教は平和と調和に生きられる。

2.4. その態度はアメリカの考え方に導入できるのか

　日本の宗教関連の態度はアメリカの考え方に導入できるかどうか分かりにくいと思う。アメリカの宗教の過去と健在がとても複雑だ。過去では宗教迫害と奴隷制があって、現在では宗教関連の戦争をしてまったから、アメリカの人口で宗教関連の紛争がよくある。だから、今のアメリカに、僕は宗教習合が無理と思う。僕が日本人ゲストにこの質問をして、ゲストの鳥谷部さんは「できないと思う」と答えたし、今のアメリカ人の大人はよく厳しい宗教を守るから、必ず子供の宗教関連の態度を影響するそうだ。それは鳥谷部さんの意見であり、日本人ゲスト深澤雄太さんの意見に似ていた。深澤さんの意見では、人口が大きすぎるそうだが、もっと小さくならなくても、宗教について日本に似ている態度はアメリカの考え方に導入できないと思われた。

3.　おわりに

　先の結論は、「いいとこ取り」という考え方があるから、日本人が宗教を一つだけ守られないし、宗教関連の違いをあまり考えていない。そして、むかしに日本は鎖国だったから、日本は世界の紛争で干渉したことがないかもしれない。結果として、干渉しないことは習慣になると思っている。ライティングアシスタントと日本人ゲストと話すことと自分で研究したことの後で、その結論はまだ保持していると思う。日本はたくさんの習慣がある国であるから、文化はすでに他の国の文化の融合であると思って、特に伝統的な日本は中国を影響したと今の日本は西洋から影響があるに違いない。それで、必ず「いいとこ取り」という習慣が日本の歴史と現代に影響したに違いない。つまり、日本人は違いに慣れているし、宗教も例外ではないそうだ。その受諾の態度または少なくても無関心ということは良かったと思うのに、アメリカの考え方は反対だから、日本の態度はアメリカの考え方に導入できないと思う。だから、僕は提案がある。提案はアメリカの学校には宗教を教えるべきだが、一つの宗教だけ教えないで、色々な宗教について教えたほうがいいと思う。そうすれば、うまくいけばアメリカの新しい世代は宗教関連の違いを受け入れているかもしれない。それがアメリカの未来のためにとても重要だと思う。

参考文献

1. "Religious Freedom Problems in Japan: Background and Current Prospects" http://www.gmu.edu/programs/icar/ijps/vol5_2/sumimoto.htm
2. "Religion and Conflict in Japan with Special Reference to Shinto and Yasukuni Shrine" http://dio.sagepub.com.proxy.library.cmu.edu/content/50/3/45.full.pdf+html
3. "Religious Conflict in Bakumatsu Japan: Zen Master Imakita Kōsen and Confucian Scholar Higashi Takusha" http://www.jstor.org.proxy.library.cmu.edu/stable/pdf/30233526.pdf?acceptTC=true
4. Hendry, Joy. *Understanding Japanese Society*. 4th ed. London: Routledge, 1995. Print.